斜里町へのインバウンドに関する人流分析

2025 年 3 月 28 日

株式会社日本政策投資銀行

協力 DBJデジタルソリューションズ

【要旨】

- 北海道において、特に道東部は従前から自然資源や食といった強みを活かした観光が盛んであり、2023 年には北海道で Adventure Travel World Summit が開催されたが、訪日外国人観光客（以下、「インバウンド」という）向けアドベンチャーツーリズムの推進を行う際も道東部の位置づけは重要である。
- より効果的なコンテンツ提供を行うためには、適切に現状把握した上で強みを活かしたターゲティングが重要と考えられる。そこで、本レポートでは道東部におけるインバウンドの周遊観光の実態を明らかにすべく、世界遺産である知床を含む斜里町を拠点としてコロナ後（2023 年 6 月～2024 年 5 月）のインバウンドの出身国・地域、訪問先、滞在日数等を分析した。
- まず属性分析において、斜里町を訪れるインバウンドは夏期が最多となるものの、比較的全シーズンにおいて観測され、出身国・地域としては台湾が約半数、次いで香港・中国・シンガポールとアジア圏が続いている。加えて旅行客に占める宿泊客の割合は冬期が最大で、通年でも 8 割強と宿泊割合が高い点も特徴といえるが、オーストラリア・シンガポールが 9 割近く、逆にアメリカは 7 割強と国ごとに比率の差異が出ている。また、平均滞在日数は 2 日程度で、季節による変動は少ないが、アジア圏よりも欧米豪の方が滞在日数は長くなる傾向が見られた。
- 次に移動分析において、出入国空港別の旅行客数では、出入国ともに新千歳空港が 7 割弱を占め、次いで羽田空港・成田空港の合計が 3 割弱を占める結果となり、年間を通して見ると新千歳空港が所在する千歳市や観光拠点となる札幌市、次いで釧路市、網走市への訪問が多かった。また季節ごとに見た際には、冬期において網走市や旭川市への訪問割合が増加していることから、季節によって周遊ルートが異なることが考えられる他、道東部から距離があるエリアにおいても交通網が整備されることで訪問割合が高くなる地域も見られた。加えて国・地域別に見ると、アジア圏では富良野市・美瑛町など著名な観光地への訪問割合が相対的に高い一方で、欧米豪においては東京都への訪問割合が高く、冬期には大空町（女満別空港）への訪問比率が全体と比して高いことが特徴となっている。
- 以上のデータ分析を踏まえ、コロナ後におけるインバウンドの道東部観光については季節別、出身国・地域別で異なる周遊を行っていることが分かる。豊富な自然を活用した観光コンテンツを有する道東部において、インバウンドの属性・ニーズに応じたターゲティングをきめ細かく行い、周遊ルートや受け入れ体制を整備することで、より一層インバウンドの誘客が可能となると期待される。

目次

1．調査概要 4

（1）目的・使用データ 4
（2）サンプルの対象エリアと期間について 4
（3）斜里町について 5

2. 属性分析 6

（1）旅行客数（総数)、日帰り客数、宿泊客数 6
（2）国地域別の旅行客数 7
（3）国地域別の宿泊比率 8
（4）国地域別の平均滞在（旅行）日数 9

3. 移動分析 10

（1）入国空港 10
（2）出国空港 11
（3）斜里町以外の他旅行先（総数） 12
（4）斜里町以外の他旅行先（全体の相関） 13
（5）斜里町以外の他旅行先（季節別の相関） 14
①夏期でみた場合 14
②冬期でみた場合 15
（6）斜里町以外の他旅行先（地域別の相関） 16
①国地域ごと 16
②各エリアと全体の差分 17
（7）知床斜里駅を拠点とした道内各地への移動時間について 18
①最適な移動手段を用いた際の移動時間 18
②鉄道を用いた際の移動時間 19

4. ウトロエリアと知床斜里エリアの分布分析 20

（1）全訪日外国人でみた斜里町内における年間滞在分布「知床斜里エリア」 20
（2）全訪日外国人でみた斜里町内における年間滞在分布「ウトロエリア」 21

5. その他・参考など 23

1．調査概要

（1）目的・使用データ

本レポートでは、位置情報ビッグデータを活用し、知床半島の斜里町を訪問したインバウンドの滞在に関する国籍別および季節別の特徴を整理し、さらなるインバウンド誘客策を検討していくための基礎調査となるよう取りまとめた。今回分析の対象としたデータはドコモのモバイル空間統計（R）を購入し、図表などの整理を行った。なお、扱う原データに関しては、5章に記載した。

（2）サンプルの対象エリアと期間について

【対象エリアとサンプル】

対象エリアを斜里町とし、ここに2時間以上滞在した訪日外国人をサンプルとした。

サンプルに該当する訪日外国人は、入国から出国までの期間で位置情報の捕捉対象となる。

【対象期間】

No	項目	
1	期間	2023年6月1日～2024年5月31日
2	集計単位	3か月ごとに集計 2023年夏：　6月～ 8月 2023年秋：　9月～11月 2023年冬：12月～ 2月 2024年春：　3月～ 5月

出典：ベースマップは、「全国市区町村界データ(C)Esri Japan」を加工し利用

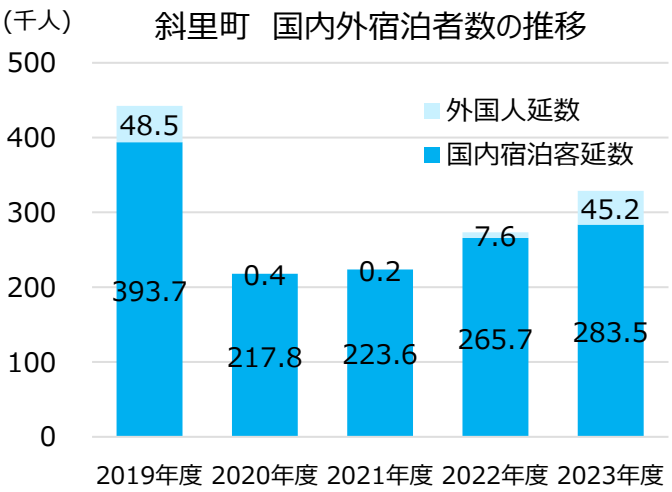
（3）斜里町について

斜里町は北海道東部のオホーツク海に面した漁業と観光業を基幹とする町で、夏は知床五湖、冬は流氷と季節に応じて魅力ある観光資源を多数有する。また、知床は 1964 年に国立公園に指定され、昨年 60 周年を迎えた上、2005 年には世界自然遺産に登録されるなど、その自然資源は世界的な評価を受けている。

観光客は新型コロナ感染症の流行前には年間約 45 万人が宿泊し、インバウンドはその約 4%を占めており、足元アフターコロナにおいて回復傾向にあり、2023 年度実績ではコロナ前を超える水準（5.2%）となっている。宿泊者に占めるインバウンドの数自体は少ないものの、その稀有な観光資源を目的としてアドベンチャーツーリズムをはじめとした高付加価値な旅を求める旅客のディスティネーションとなっている。

写真：知床五湖

写真：流氷



年	出来事
1964年	国立公園に指定
1990年	知床森林生態系保護地区指定
2005年	世界自然遺産に登録
2024年	国立公園指定60周年
2025年	世界自然遺産登録20周年

出典：（一社）知床しゃり、（公社）北海道観光振興機構

2. 属性分析

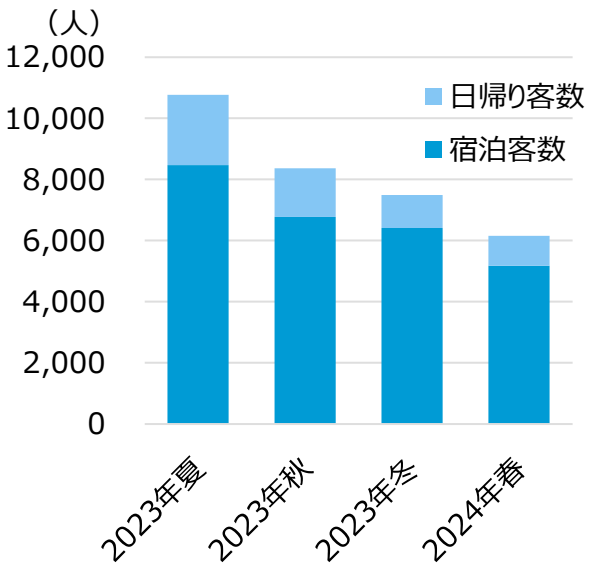
（1）旅行客数（総数）、日帰り客数、宿泊客数

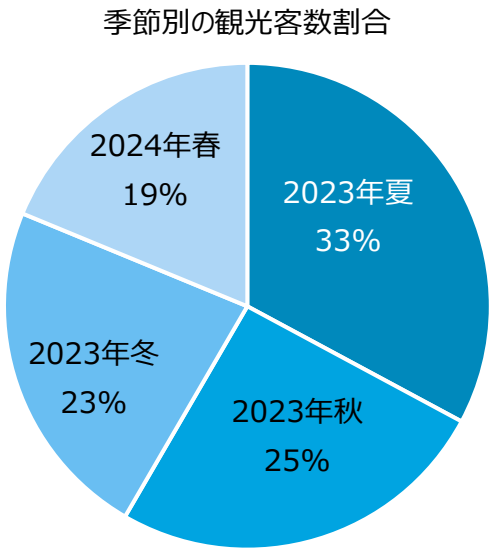
- 2023 年 6 月以降の 1 年間でみると斜里町に訪れたインバウンド客数は、約 3.3 万人。
- 夏期には年間の 3 割強の旅行客が来訪し、流氷シーズンである冬期の割合を 10pt ほど上回っている。全般としては比較的全シーズンで旅行客数が安定している。
- 斜里町における宿泊客は年間で約 2.7 万人となり、旅行客数の 8 割強が宿泊している。季節別では冬期において宿泊割合が 85.6%となり夏期より 7pt ほど高い。

図表 2-1：旅行客数、日帰り客数、宿泊客数

（人）

	2023年夏	2023年秋	2023年冬	2024年春	総計	割合
旅行客数	10,767	8,364	7,487	6,151	32,769	100.0%
宿泊客数	8,466	6,772	6,409	5,174	26,821	81.8%
日帰り客数	2,301	1,592	1,078	977	5,948	18.2%
宿泊割合	78.6%	81.0%	85.6%	84.1%	81.8%	





旅行客数： 時間区分なく 2 時間以上滞在した人数

宿泊客数： 2～5 時（深夜帯）に 2 時間以上滞在した人数

日帰り客数： 旅行客数から宿泊客数を除いた人数

※集計方式： 期間ユニーク(同一エリアにおいて、滞在期間に関わらず 1 人と集計)

データ提供元：（株）ドコモ・インサイトマーケティング／モバイル空間統計

モバイル空間統計は株式会社 NTT ドコモの登録商標です。

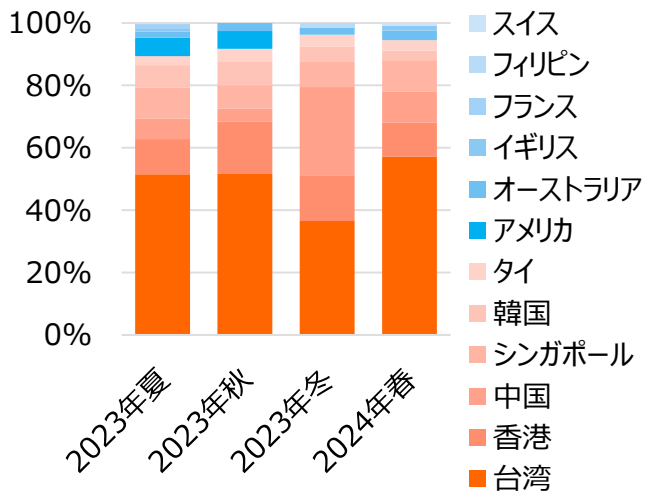
（2）国地域別の旅行客数

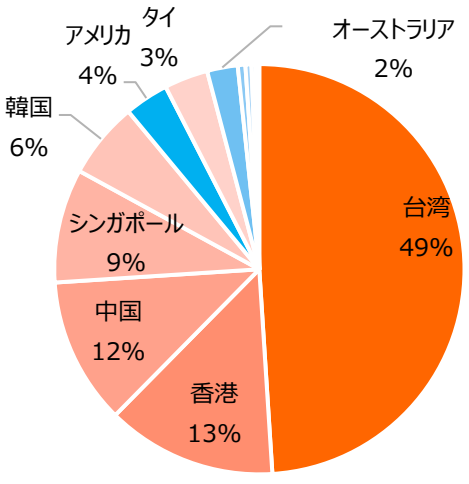
- 国地域別の旅行客数でみると台湾がトップであり全体の半数近くを占めている。次いで香港、中国、シンガポール、韓国と並び、アジアが全体の９割強を占めている。
- 季節ごとにみた際に台湾が比較的少ない冬期において中国からの来訪割合が高く、シンガポールは夏期に来訪割合が高い等の特徴がみられる。
- 欧米豪は全体の１割ほどだが、オーストラリアを除くと特に冬期の来訪がない（データが少ない）ことが特徴である。

図表 2-2：国地域別の旅行客数

（人）

国地域	2023年夏	2023年秋	2023年冬	2024年春	総計	割合
台湾	5,247	3,989	2,563	2,951	14,750	49.0%
香港	1,149	1,294	1,028	566	4,037	13.4%
中国	663	326	1,983	512	3,484	11.6%
シンガポール	1,022	578	580	525	2,705	9.0%
韓国	729	594	333	157	1,813	6.0%
アメリカ	606	442			1,048	3.5%
タイ	292	309	265	173	1,039	3.5%
オーストラリア	197	201	168	160	726	2.4%
イギリス	99			82	181	0.6%
フランス	143				143	0.5%
フィリピン			98		98	0.3%
スイス	41			45	86	0.3%
総計	10,188	7,733	7,018	5,171	30,110	100%





旅行客数： 時間区分なく２時間以上滞在した人数。前頁と合計数が一致しないのはデータ数が少ない国地域が秘匿されるため。

※集計方式： 期間ユニーク(同一エリアにおいて、滞在期間に関わらず１人と集計)

データ提供元：（株）ドコモ・インサイトマーケティング／モバイル空間統計

モバイル空間統計は株式会社 NTT ドコモの登録商標です。

（3）国地域別の宿泊比率

- 旅行客数の最も多い台湾では、宿泊比率が 83.8%となった。他方でアメリカは 71.9%であり、地域によってバラつきがある。
- また、国地域のなかでも季節別で宿泊比率の変動がみられ、斜里町への観光ルートの差異が考えられる。（詳細は後述）

図表 2-3：国地域別の宿泊比率

（人）

国地域	宿泊客数	旅行客数	宿泊比率
台湾	12,364	14,750	83.8%
香港	3,238	4,037	80.2%
中国	3,002	3,484	86.2%
シンガポール	2,374	2,705	87.8%
韓国	1,354	1,813	74.7%
タイ	784	1,039	75.5%
アメリカ	753	1,048	71.9%
オーストラリア	652	726	89.8%
イギリス	141	181	77.9%
スイス	71	86	82.6%
合計/平均	24,733	29,869	82.8%

※宿泊比率 ＝ 宿泊客数 ／ 旅行客数

国地域＊季節別の宿泊比率

国地域	2023年夏	2023年秋	2023年冬	2024年春	平均
台湾	77.9%	86.7%	87.4%	87.3%	83.8%
香港	78.6%	74.8%	90.4%	77.4%	80.2%
中国	87.0%	81.3%	87.9%	81.3%	86.2%
シンガポール	86.9%	84.3%	94.3%	86.1%	87.8%
韓国	73.4%	78.1%	69.1%	79.6%	74.7%
アメリカ	65.0%	81.2%			71.9%
平均	78.6%	81.0%	84.1%	81.8%	82.8%

データ提供元：（株）ドコモ・インサイトマーケティング／モバイル空間統計

モバイル空間統計は株式会社 NTT ドコモの登録商標です。

（４）国地域別の平均滞在（旅行）日数

- 平均滞在日数は、春にやや長く、秋にやや短い傾向にあるが、その季節差は小さい。
- 宿泊客数が最大の台湾で、平均滞在日数が 2.1 日となっている。比較的滞在日数が長期化するのが欧州やオーストラリアで、反対にアジア圏は 2 日未満の国地域もある。

図表 2-4：国地域別の平均滞在（旅行）日数

（日）

国地域	2023年夏	2023年秋	2023年冬	2024年春	年間（平均）
オーストラリア	2.8	2.5	2.2	3.5	2.8
中国	2.3	2.5	2.4	2.2	2.3
シンガポール	2.2	2.1	2.1	2.2	2.2
香港	1.9	1.8	2.1	2.6	2.1
台湾	2.1	2.1	2.1	2.0	2.1
韓国	2.0	2.0	1.9	1.9	2.0
タイ	2.0	1.8	1.9	1.8	1.9
イギリス	2.3			3.3	2.8
スイス	2.9			2.5	2.7
アメリカ	2.1	2.3			2.2
フランス	2.3				2.3
フィリピン			1.9		1.9
全ての国地域	2.2	2.1	2.2	2.3	2.2

年間（平均）は年間の平均滞在日数ではなく、４期間の平均滞在日数について相加平均にて算出したもの

※平均滞在日数＝日別のユニーク延べ人数/期間内のユニーク延べ人数

データ提供元：（株）ドコモ・インサイトマーケティング／モバイル空間統計

モバイル空間統計は株式会社 NTT ドコモの登録商標です。

3. 移動分析

（1）入国空港

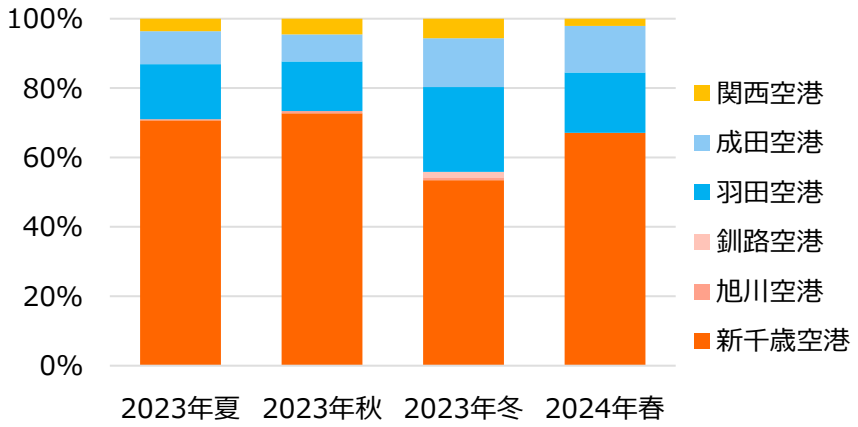
- 斜里町を訪れた訪日外国人旅行者が入国時に利用した空港は全数が空路によるもので、年間でみると、新千歳空港 66.5%をトップに、羽田空港 17.7%、成田空港 10.9%となった。また新千歳空港以外の道内空港については国際線の定期便運航が少数であること等から利用者数は少ない。
- 季節別にみると冬期は新千歳空港の利用者が減少し、首都圏の空港利用者が増加する。道内では新千歳空港においては夏期、旭川空港では冬期に高くなる。
- また、釧路空港ではチャーター便による国際便（台湾便）の誘致を行った 2023 年冬の入国者の 20%弱が斜里町を訪れている。

図表 3-1：斜里町を訪れるインバウンド客の入国湾空港

（人）

入国湾空港	2023年夏	2023年秋	2023年冬	2024年春	総計	割合
新千歳空港	7,357	5,894	3,932	3,871	21,054	66.5%
羽田空港	1,650	1,159	1,801	1,005	5,615	17.7%
成田空港	992	632	1,035	774	3,433	10.9%
関西空港	374	367	414	120	1,275	4.0%
旭川空港	33	55	60		148	0.5%
釧路空港			115		115	0.4%
総計	10,406	8,107	7,357	5,770	31,640	100.0%

斜里町往訪割合	2023年夏	2023年秋	2023年冬	2024年春
新千歳空港	2.1%	2.2%	0.8%	1.3%
羽田空港	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%
成田空港	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
関西空港	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
旭川空港	0.6%	1.5%	1.1%	0.0%
釧路空港	0.0%	0.0%	19.6%	0.0%



データ提供元：（株）ドコモ・インサイトマーケティング／モバイル空間統計

モバイル空間統計は株式会社 NTT ドコモの登録商標です。

斜里町訪問割合は法務省の出入国管理統計より

（2）出国空港

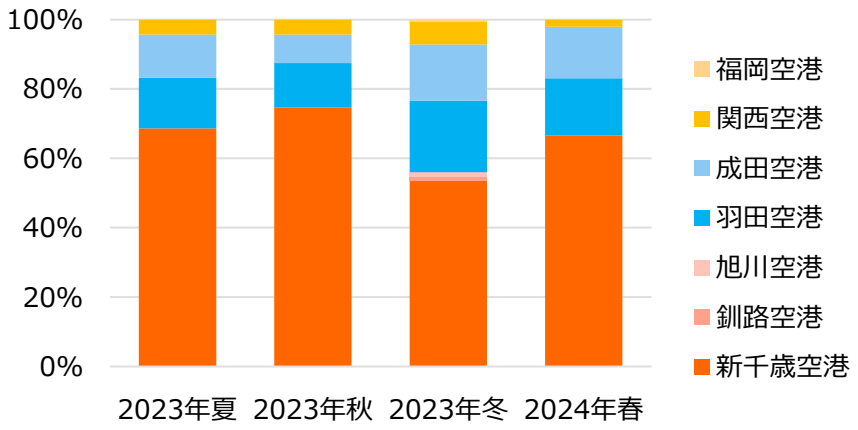
- 斜里町を訪れた訪日外国人旅行者が出国時に利用した空港は、年間でみると、新千歳空港 66.3%をトップに、羽田空港 15.9%、成田空港 12.7%となっており、入国時とほぼ同じ傾向を示した。また、斜里町の訪問割合についても入国時と同様の傾向（新千歳空港の利用割合が冬期に下がる等）である。
- 出国においては冬に福岡空港から離日するインバウンドも一定数観測された。
- また出入国を通して、船舶での移動（＝港湾から出入国）はみられなかった。

図表 3-2：斜里町を訪れるインバウンド客の出国湾空港

（人）

出国湾空港	2023年夏	2023年秋	2023年冬	2024年春	総計	割合
新千歳空港	7,107	6,073	3,873	3,854	20,907	66.3%
羽田空港	1,514	1,042	1,494	954	5,004	15.9%
成田空港	1,287	669	1,175	861	3,992	12.7%
関西空港	451	352	478	120	1,401	4.4%
釧路空港			99		99	0.3%
旭川空港			87		87	0.3%
福岡空港			43		43	0.1%
総計	10,359	8,136	7,249	5,789	31,533	100.0%

斜里町往訪割合	2023年夏	2023年秋	2023年冬	2024年春
新千歳空港	2.0%	2.3%	0.8%	1.3%
羽田空港	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%
成田空港	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
関西空港	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
釧路空港	0.0%	0.0%	16.9%	0.0%
旭川空港	0.0%	0.0%	1.7%	0.0%
福岡空港	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%



データ提供元：（株）ドコモ・インサイトマーケティング／モバイル空間統計

モバイル空間統計は株式会社 NTT ドコモの登録商標です。

斜里町訪問割合は法務省の出入国管理統計より

（3）斜里町以外の他旅行先（総数）

- 全ての国地域の旅行客を対象に他旅行先[1]との相関関係を割合で整理した。
- 斜里町来訪者の 78.6%が千歳市に訪問しており、次いで、札幌市中央区(75.0%)、釧路市(73.0%)、網走市(65.1%)と並ぶ。前述のように新千歳空港の出入国空港シェアが 7 割弱となっており、空港利用との相関が高く、国際線直行便の利便性が伺える。

図表 3-3：斜里町を訪れるインバウンド客のその他の旅行先（総数）[2]

（人）

旅行客数	2023年夏	2023年秋	2024年冬	2024年春	総計
北海道 斜里町	10,767	8,364	7,487	6,151	32,769

市区町村名	2023年夏	2023年秋	2023年冬	2024年春	総計	相関の比率
北海道 千歳市	8,770	6,968	5,510	4,523	25,771	78.6%
北海道 札幌市中央区	8,017	6,637	5,571	4,340	24,565	75.0%
北海道 釧路市	8,339	5,965	5,378	4,250	23,932	73.0%
北海道 網走市	6,517	5,273	5,938	3,606	21,334	65.1%
北海道 弟子屈町	5,981	5,293	4,055	3,644	18,973	57.9%
北海道 旭川市	4,068	4,112	4,048	2,507	14,735	45.0%
北海道 小樽市	4,322	4,120	3,194	2,373	14,009	42.8%
北海道 上川町	4,063	4,978	1,679	1,708	12,428	37.9%
北海道 美瑛町	4,039	2,524	1,076	1,256	8,895	27.1%
北海道 北広島市	2,698	2,337	2,119	1,623	8,777	26.8%
北海道 北見市	2,556	2,781	1,651	1,734	8,722	26.6%
東京都 大田区	2,527	1,673	2,690	1,532	8,422	25.7%
北海道 富良野市	2,818	1,776	1,503	1,163	7,260	22.2%
北海道 帯広市	2,437	1,797	550	1,332	6,116	18.7%
北海道 札幌市南区	1,645	1,762	1,464	697	5,568	17.0%
北海道 大空町	1,397	722	1,148	1,694	4,961	15.1%
北海道 音更町	1,589	1,425	765	831	4,610	14.1%
北海道 札幌市北区	1,571	896	1,169	857	4,493	13.7%
北海道 羅臼町	2,188	1,102	445	426	4,161	12.7%
千葉県 成田市	1,129	720	1,077	819	3,745	11.4%
北海道 幕別町	803	975	792	701	3,271	10.0%
東京都 渋谷区	1,022	793	852	576	3,243	9.9%
北海道 占冠村	1,495	1,156	257	256	3,164	9.7%
北海道 登別市	1,100	905	502	436	2,943	9.0%
北海道 中富良野町	2,280	407		198	2,885	8.8%
東京都 千代田区	896	628	714	536	2,774	8.5%
北海道 函館市	1,054	740	516	363	2,673	8.2%
東京都 中央区	932	512	610	466	2,520	7.7%
東京都 新宿区	767	494	692	522	2,475	7.6%
北海道 東川町	1,043	910	227	239	2,419	7.4%
東京都 港区	670	608	654	420	2,352	7.2%
北海道 紋別市	866	402	640	416	2,324	7.1%
北海道 洞爺湖町	972	537	382	396	2,287	7.0%
東京都 台東区	691	617	625	322	2,255	6.9%
北海道 上富良野町	1,184	377	304	224	2,089	6.4%
北海道 札幌市東区	785	529	507	245	2,066	6.3%
北海道 稚内市	778	495	120	631	2,024	6.2%
北海道 札幌市西区	771	434	495	282	1,982	6.0%
北海道 根室市	879	640	140	311	1,970	6.0%
北海道 札幌市豊平区	682	735	299	217	1,933	5.9%
北海道 鶴居村	495	378	552	268	1,693	5.2%

[1] 斜里町来訪者を対象に斜里町以外で 2 時間以上滞在した市区町村を示す。

[2] 5%以上相関がある先を表示

※旅行先の相関の比率(%)=他旅行先の旅行客数/斜里町の旅行客数

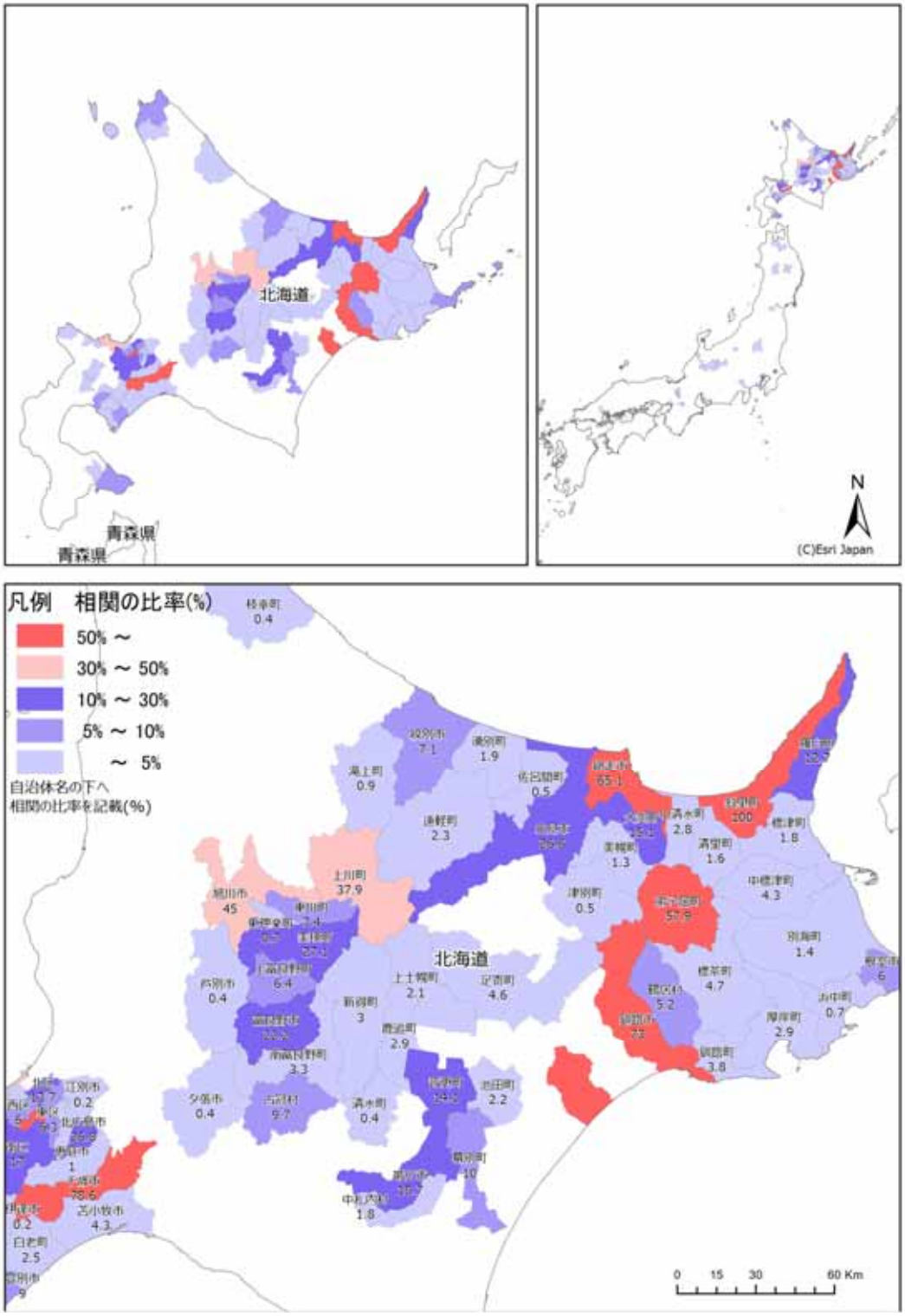
データ提供元：（株）ドコモ・インサイトマーケティング／モバイル空間統計

モバイル空間統計は株式会社 NTT ドコモの登録商標です。

（4）斜里町以外の他旅行先（全体の相関）

- 斜里町訪問者のうち、道外への訪問は少ないことから、北海道を目的地として旅行する人が大宗を占めることが分かる。（道内エリアの考察は次頁以降で実施）

斜里町訪問者の他都市訪問　相関の比率【年間-全訪日外国人】



データ提供元：（C）Esri Japan

（株）ドコモ・インサイトマーケティング／モバイル空間統計

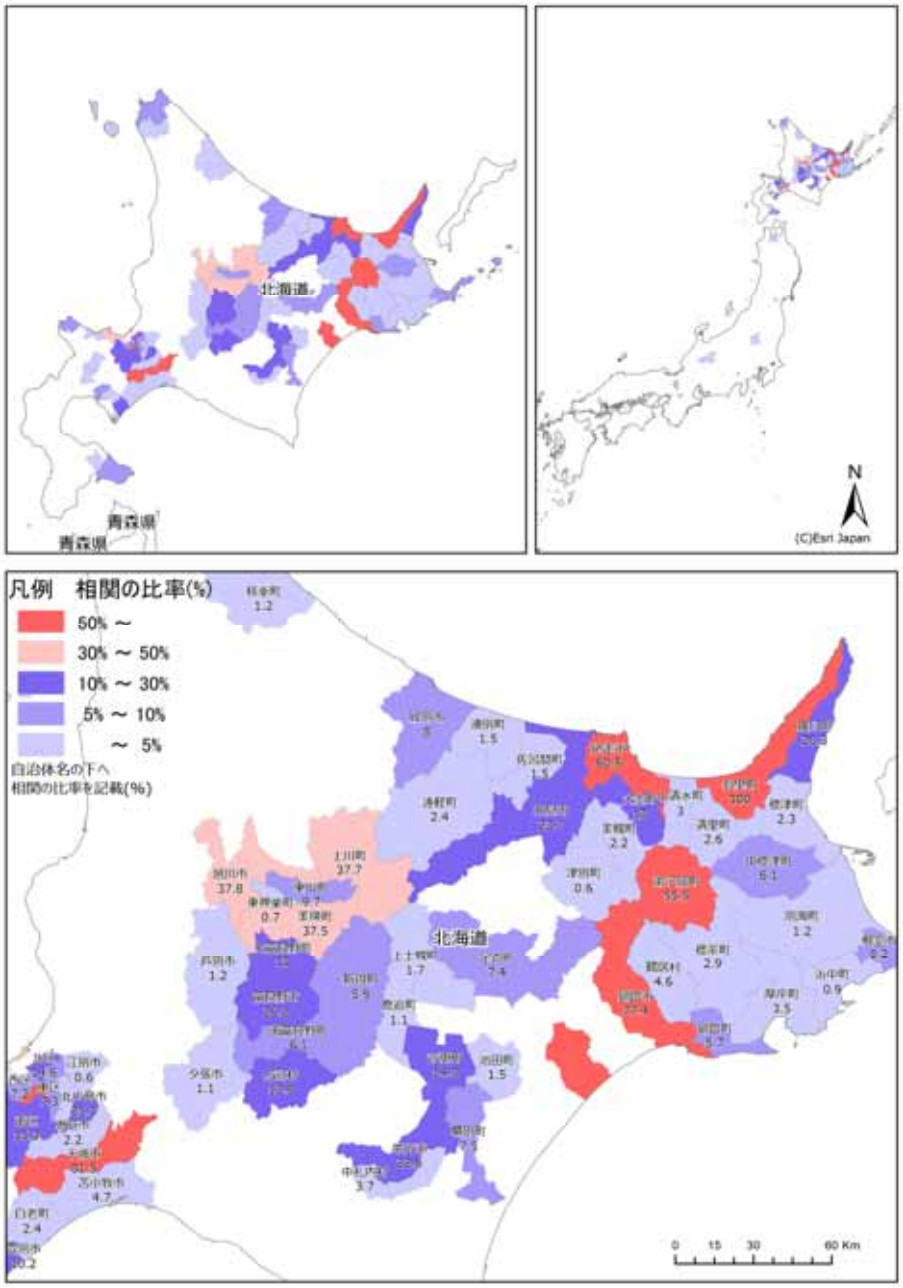
モバイル空間統計は株式会社 NTT ドコモの登録商標です。

（5）斜里町以外の他旅行先（季節別の相関）

①夏期でみた場合

- 斜里町訪問者の 81.5%が千歳市に訪問しており、次いで、釧路市(77.4%)、札幌市中央区（74.4%)、網走市(60.5%)と並ぶ。以上の傾向から斜里町を訪問するインバウンドは新千歳空港から入国し、札幌～富良野・美瑛・層雲峡～網走・知床~阿寒などを周遊し、新千歳空港から出国するという夏期における代表的な団体ツアー旅行のルートがみて取れる。
- 隣接する羅臼町への訪問割合は夏期が高く（20.3%)、道路事情による点も大きい。

斜里町訪問者の他都市訪問　相関の比率【夏-全訪日外国人】



データ提供元：（C）Esri Japan

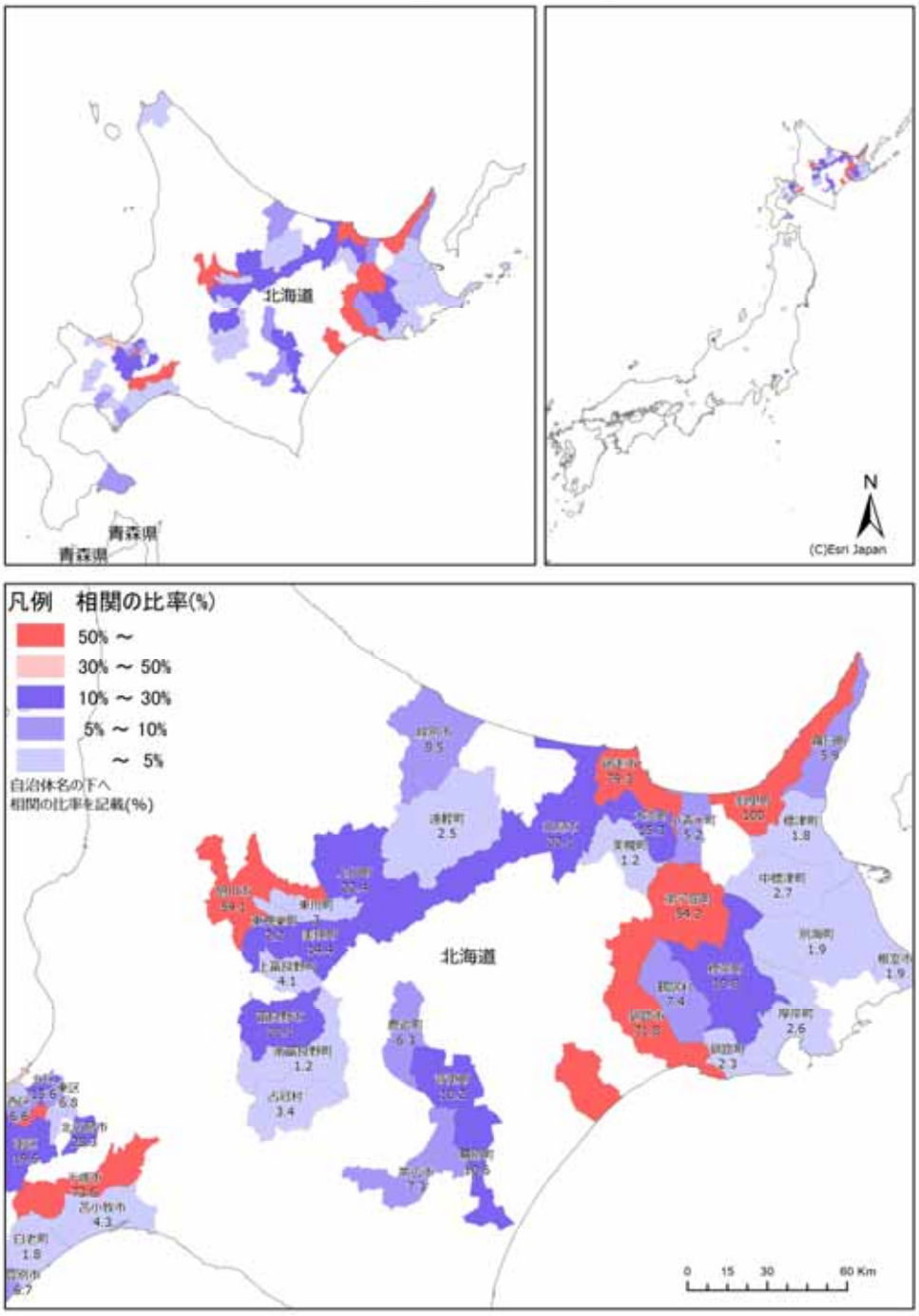
（株）ドコモ・インサイトマーケティング／モバイル空間統計

モバイル空間統計は株式会社 NTT ドコモの登録商標です。

② 冬期でみた場合

- 冬期においては流氷シーズンとなるため、網走市においては、相関の比率が 80%近くまで上昇している。
- また、旭川市でも 54.1%をつけるなど拠点性が高まる他、滞在する他都市数は夏期と比べて減少している（行動範囲が狭まっている）。

斜里町訪問者の他都市訪問　相関の比率【冬−全訪日外国人】



データ提供元：©Esri Japan

（株）ドコモ・インサイトマーケティング／モバイル空間統計

モバイル空間統計は株式会社 NTT ドコモの登録商標です。

（６）斜里町以外の他旅行先（地域別の相関）

①国地域ごと

- 属性分析通り、基本的には台湾が大宗を占める。
- 国地域別でみるに、空港を有する都市や大都市、道東の都市が多く傾向は類似しているものの、中国は東京都大田区（羽田空港所在地）の割合が高い、台湾は上川町や音更町の割合が高い、香港は比較的北広島市の割合が高い、シンガポールは小樽市の割合が高い等の特徴を確認できる。

図表 3-6：斜里町を訪れるインバウンド客のその他の旅行先（国・地域別）

【アジア】

（人）

市区町村名	韓国	中国	台湾	香港	タイ	シンガポール	フィリピン
北海道 千歳市	1,569	2,443	12,321	3,328	894	2,352	
北海道 札幌市中央区	1,225	2,398	11,386	3,461	871	2,343	
北海道 釧路市	843	2,680	11,383	3,016	659	2,239	
北海道 網走市	826	2,544	10,284	3,010	664	1,935	66
北海道 弟子屈町	754	2,125	8,715	2,070	524	2,129	
北海道 旭川市	603	1,545	6,078	2,953	703	1,246	
北海道 小樽市	491	1,344	5,688	2,250	547	1,993	
北海道 上川町	385	430	7,294	1,367	442	903	
北海道 北広島市		212	3,494	2,431	605	1,581	
北海道 北見市	232	559	5,101	1,306	303	306	
北海道 美瑛町	454	687	4,362	956	185	991	
北海道 富良野市	230	534	2,570	1,126	286	1,562	
東京都 大田区	60	1,436	1,779	182	125	1,374	
北海道 帯広市	405	357	2,792	1,045	178	432	
北海道 札幌市南区	165	263	2,186	612	167	1,393	
北海道 音更町	52	115	3,305			153	
北海道 札幌市北区	327	741	1,720	558	130	180	
北海道 羅臼町	186	264	1,724	469	43	310	
北海道 大空町	137	711	2,051			173	

【欧米豪】

（人）

市区町村名	アメリカ	オーストラリア	イギリス	スイス	総計
北海道 千歳市	831	281	71		24,090
北海道 札幌市中央区	742	259	41	38	22,764
北海道 釧路市	774	241	58	38	21,931
北海道 網走市	530				19,859
北海道 弟子屈町	647	147	43	36	17,190
北海道 旭川市	396	120	69		13,713
北海道 小樽市	387	131			12,831
北海道 上川町	524				11,345
北海道 北広島市	156				8,479
北海道 北見市	246				8,053
北海道 美瑛町	373				8,008
北海道 富良野市	167				6,475
東京都 大田区	480	415	78		5,929
北海道 帯広市	61				5,270
北海道 札幌市南区	189				4,975
北海道 音更町	225				3,850
北海道 札幌市北区	97				3,753
北海道 羅臼町	157	127			3,280
北海道 大空町		112			3,184

データ提供元：（株）ドコモ・インサイトマーケティング／モバイル空間統計

モバイル空間統計は株式会社 NTT ドコモの登録商標です。

②各エリアと全体の差分

- アジア・欧米豪各エリアにつき、全体との差分を比較し、他地域と比較して訪れる傾向の強い地域を確認した。
- 国地域別でみるに、アジアは網走市を筆頭に北広島市、美瑛町、小樽市、富良野市など著名な観光地を有する市町や帯広市、釧路市、北見市、旭川市など人口が集中するエリアの周遊が全体と比較し多い。また、欧米豪においては北海道への直行便がなく道外空港の利用が求められるなか、東京都特別区への往来が多くなっている。
- 時期をみるに、冬期は夏期と比べ周遊される自治体数が少ないなか、差分が生じる地域も道東部に寄っている。
- 欧米豪の冬期は大空町（女満別空港）への訪問比率が全体と比し大きく、夏期と来道手段が異なる可能性が示唆される。

図表 3-7：斜里町を訪れるインバウンド客のその他の旅行先（各エリアと全体の差分）

【アジア】

夏期	アジア	全体	差分（pt）
北海道 網走市	65.0%	60.5%	4.4pt
北海道 千歳市	85.8%	81.5%	4.3pt
北海道 北広島市	28.0%	25.1%	3.0pt
北海道 美瑛町	40.3%	37.5%	2.8pt
北海道 帯広市	25.3%	22.6%	2.7pt
北海道 釧路市	79.9%	77.4%	2.5pt
北海道 札幌市中央区	76.7%	74.5%	2.2pt
北海道 小樽市	41.8%	40.1%	1.6pt
北海道 北見市	25.3%	23.7%	1.6pt
北海道 富良野市	27.7%	26.2%	1.5pt
北海道 旭川市	39.2%	37.8%	1.4pt
北海道 札幌市北区	15.6%	14.6%	1.0pt
北海道 中富良野町	22.2%	21.2%	1.0pt

冬期	アジア	全体	差分（pt）
北海道 網走市	82.3%	79.3%	3.0pt
北海道 旭川市	56.1%	54.1%	2.0pt
北海道 北広島市	30.0%	28.3%	1.7pt
北海道 千歳市	74.9%	73.6%	1.3pt
北海道 札幌市中央区	75.5%	74.4%	1.1pt
北海道 富良野市	21.2%	20.1%	1.1pt
北海道 札幌市南区	20.6%	19.6%	1.1pt

【欧米豪】

夏期	欧米豪	全体	差分（pt）
東京都 大田区	47.1%	23.5%	23.6pt
東京都 新宿区	14.7%	7.1%	7.6pt
千葉県 成田市	17.9%	10.5%	7.4pt
北海道 羅臼町	26.2%	20.3%	5.8pt
東京都 渋谷区	13.9%	9.5%	4.4pt
東京都 千代田区	12.2%	8.3%	3.8pt
東京都 中央区	11.0%	8.7%	2.4pt
東京都 港区	8.1%	6.2%	1.9pt

冬期	欧米豪	全体	差分（pt）
北海道 大空町	66.7%	15.3%	51.3pt
東京都 渋谷区	61.3%	11.4%	49.9pt
東京都 新宿区	58.9%	9.2%	49.7pt
東京都 大田区	58.9%	35.9%	23.0pt

データ提供元：（株）ドコモ・インサイトマーケティング／モバイル空間統計

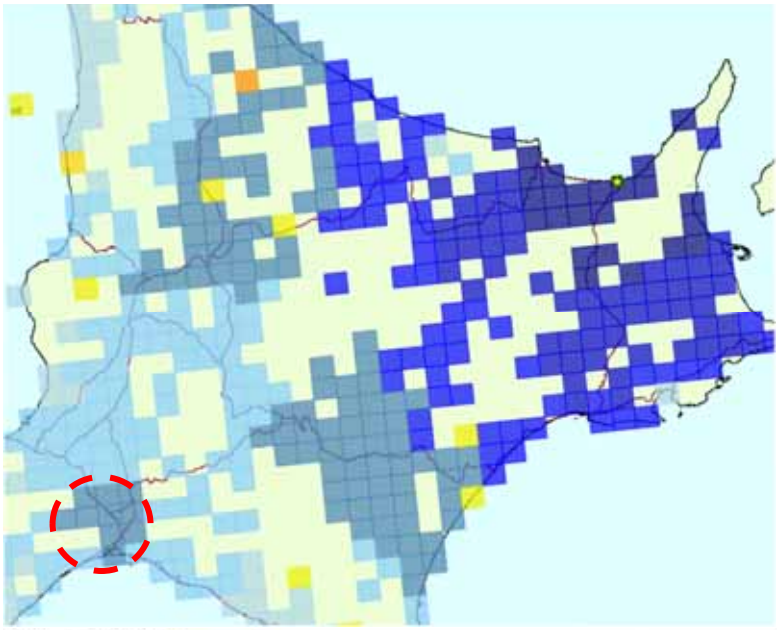
モバイル空間統計は株式会社 NTT ドコモの登録商標です。

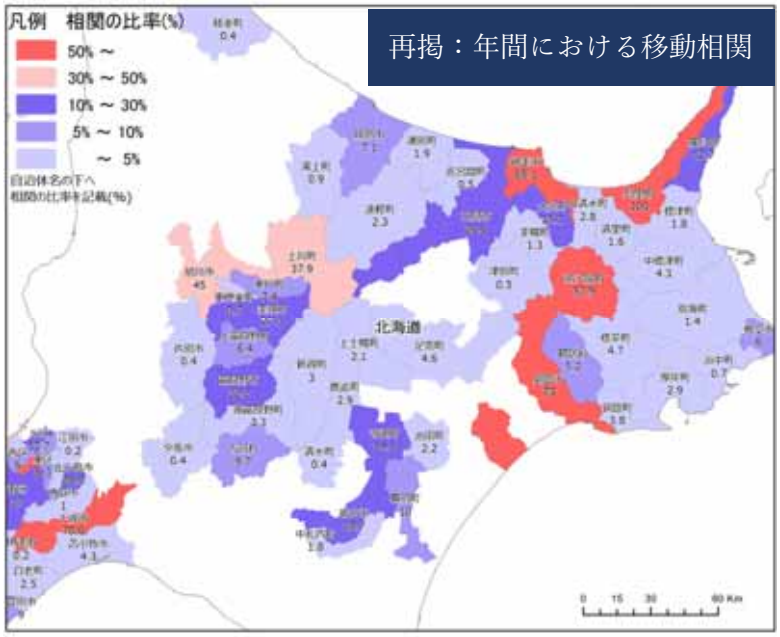
（7）知床斜里駅を拠点とした道内各地への移動時間について

①最適な移動手段を用いた際の移動時間

- 総合交通分析システムは道路・鉄道・航空・船舶の各交通機関を組み合わせたモード横断的な観点で交通体系の分析が可能なシステムで、地点間による経路探索も可能。
- 斜里町内の知床斜里駅にポイントを置き、各地域への移動時間を 1 時間単位で色分けし図示。基本的には距離に応じて移動時間が長くなるが（自動車利用）、千歳エリアは航空機を利用することで 240 分圏となっており、そのエリアが訪問割合も高くなっていることから、複数の交通手段による機能補完を通じた交通網形成が重要である。

図表 3-4：知床斜里駅を拠点とした道内各地への移動時間（各交通機関から最適な手段使用）





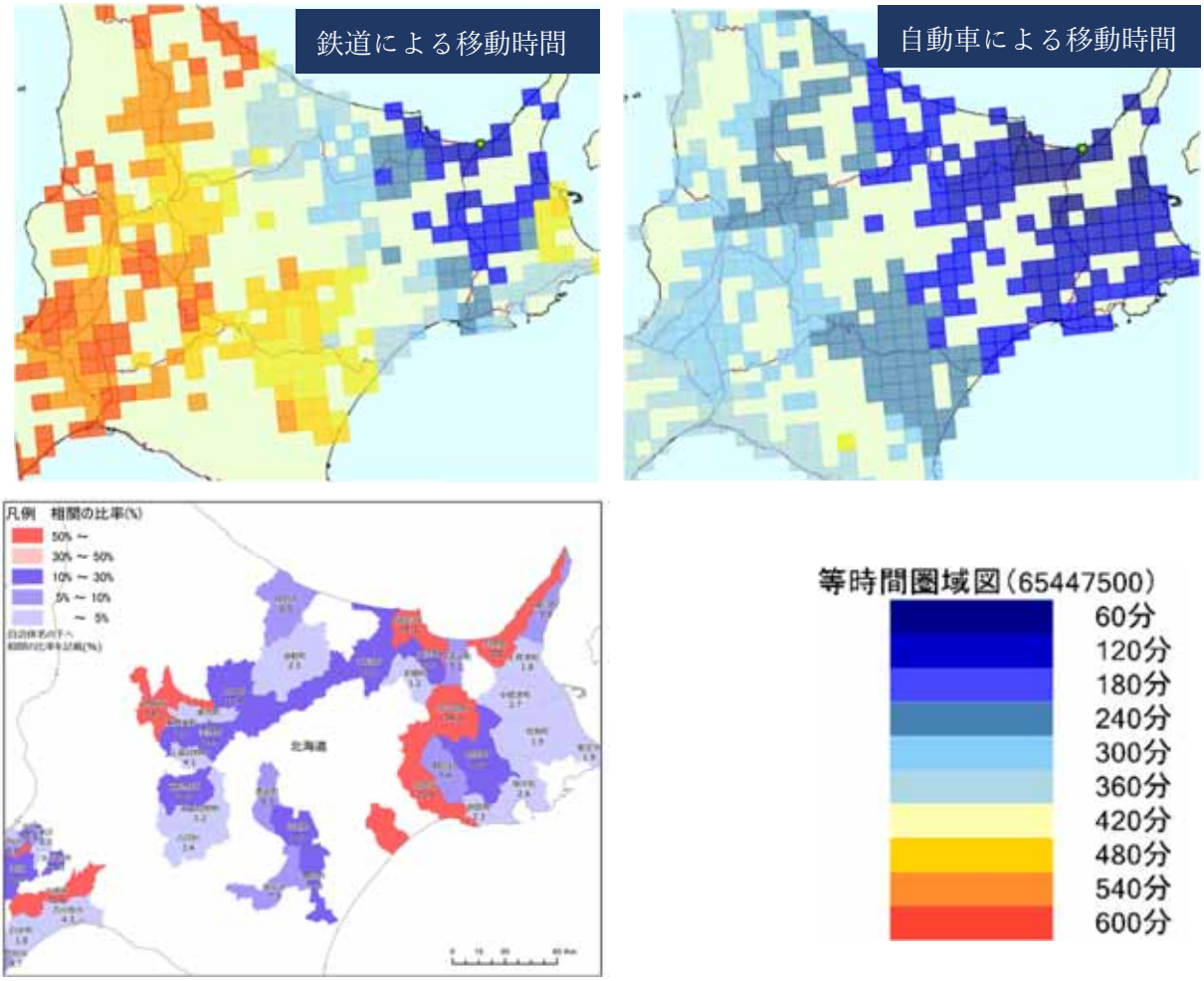
（出所）上図：「総合交通分析システム（NITAS）」を使用し、(株)日本経済研究所作成

下図：©Esri Japan、（株）ドコモ・インサイトマーケティング/モバイル空間統計

②鉄道を用いた際の移動時間

- 続いて鉄道による移動時間（駅から先は自動車移動）をヒートマップにて図示すると、鉄道移動の割合が増えると想定される冬期における移動の相関比率（再掲）にて割合が高いエリアとの類似性が確認できる。一方で、所要時間は自動車の方が短いことが確認でき、鉄道駅からのアクセシビリティも踏まえると鉄道を中心とした道東周遊は現時点では相応に難易度が高い。
- また移動時間の長短と往訪割合の高低が完全に相関するとは言い切れないことから、インバウンドが訪問を希望するエリアへのアクセシビリティ向上が必要ではないか。
- 以上を踏まえ季節を問わず道東部は移動時間の制約を受けやすいなか、既に実施されている冬期における道東部内を結ぶバス等の交通網の整備や道外から道東部に直接訪問するルートを増やす等による滞在日数を伸ばす仕組みづくりも重要になると思料。

図表 3-5：知床斜里駅を拠点とした道内各所への移動時間（左図：鉄道利用　右図：道路利用）



（出所）上図：「総合交通分析システム（NITAS）」を使用し、(株)日本経済研究所作成

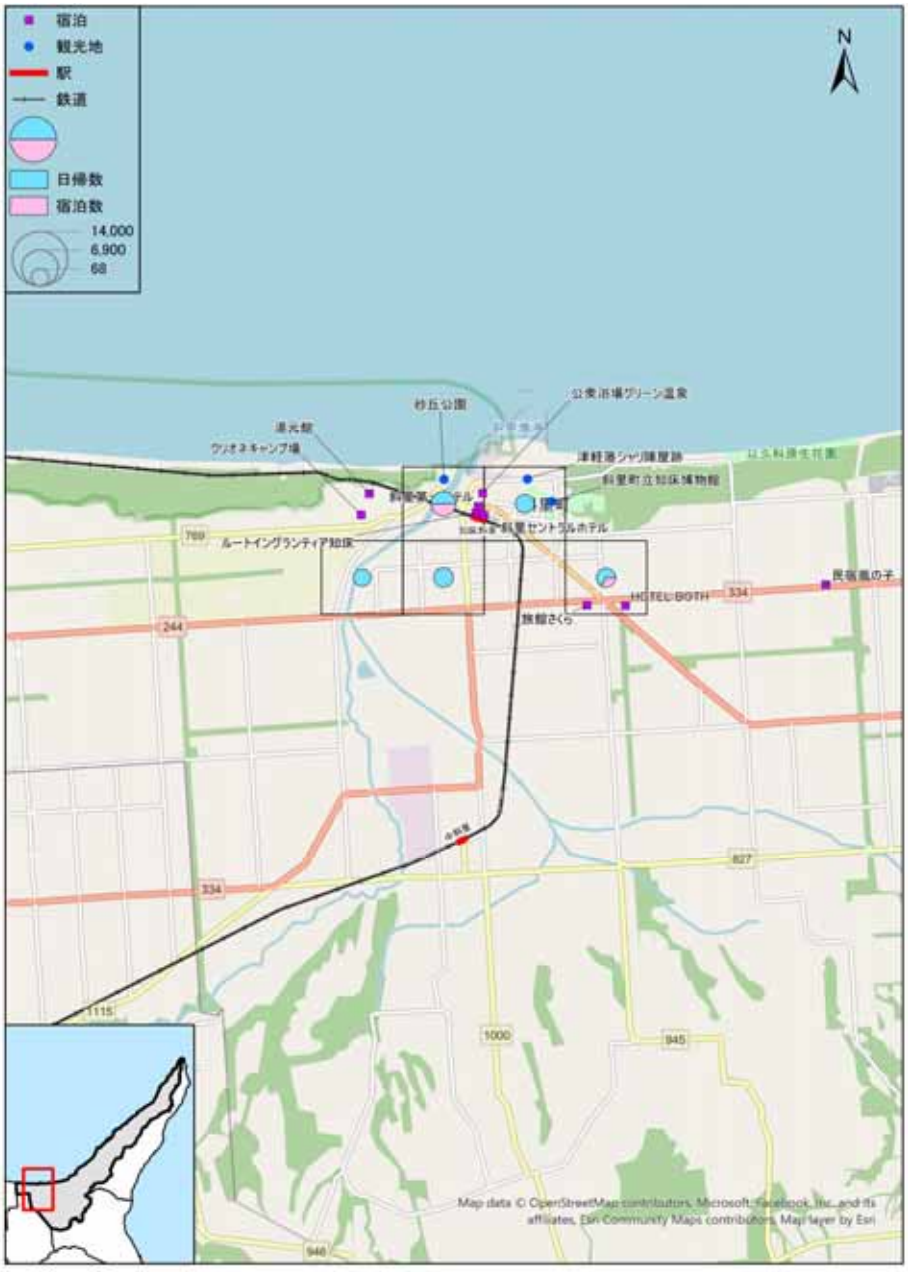
下図：©Esri Japan、（株）ドコモ・インサイトマーケティング/モバイル空間統計

4. ウトロエリアと知床斜里エリアの分布分析

斜里町内に関しては、おおむね 1km メッシュ単位で、旅行客数、宿泊客数を国地域別、期間別で集計している。なお、各メッシュへの滞在は、当該メッシュへ 1 時間以上滞在した人を対象とし、メッシュ内での期間ユニークとしてカウントされている。

（1）全訪日外国人でみた斜里町内における年間滞在分布「知床斜里エリア」

- JR 知床斜里駅を含むメッシュで旅行客数が 3 千人弱となっている（次節のメッシュコードと原データより）。また、当該メッシュでの宿泊率は、5 割程度となっている。

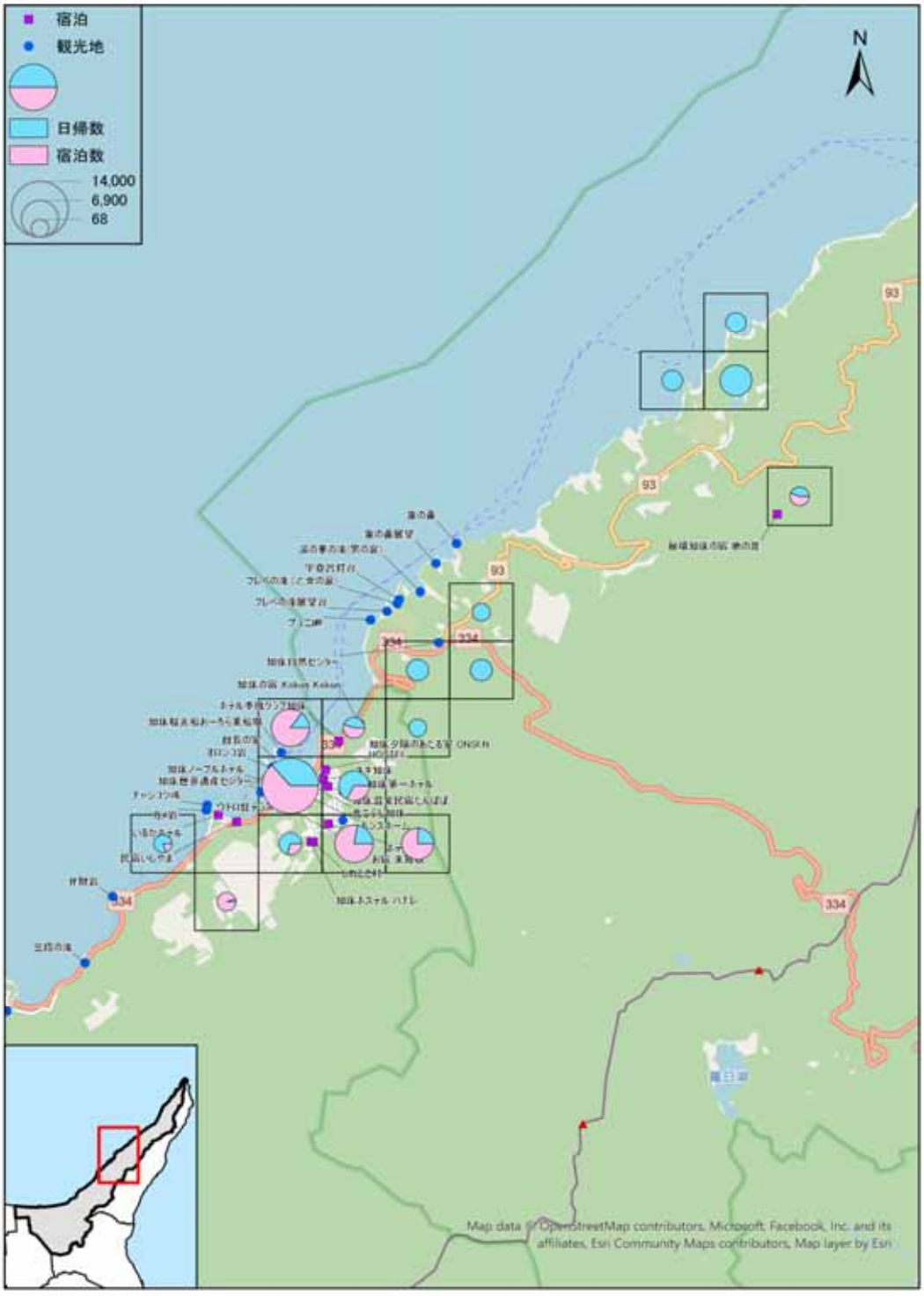


データ提供元：（株）ドコモ・インサイトマーケティング／モバイル空間統計

モバイル空間統計は株式会社 NTT ドコモの登録商標です。

（2）全訪日外国人でみた斜里町内における年間滞在分布「ウトロエリア」

- ホテルが密集する「知床世界遺産センター」を含むメッシュで、旅行客数が最大の１．４万人となっており、宿泊率は６割を超えている。
- また、当該メッシュ周辺で宿泊率が９割近い値を示すところも存在する。



データ提供元：（株）ドコモ・インサイトマーケティング／モバイル空間統計

モバイル空間統計は株式会社 NTT ドコモの登録商標です。

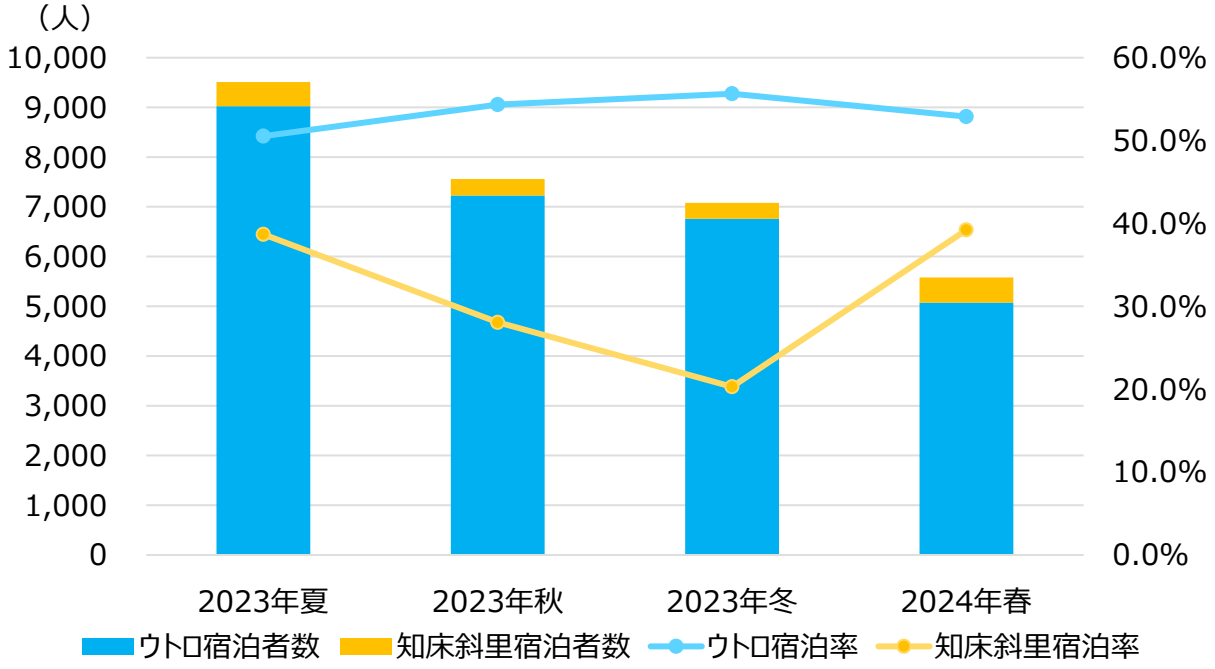
（3）分析・考察

- ウトロと知床斜里で比較した場合にはホテル・旅館が比較的多く立地するウトロにおける宿泊率が高い。
- 季節別でみた際にはウトロは年間でおおむね 50～55%にて推移する一方、知床斜里においては秋～冬にかけて低下し、特に冬は 20%強と春の半数ほどにまで低下する。

図表 4-1：ウトロ・知床斜里エリアにおける時期別の旅行客数と宿泊率

（人）

		2023年夏	2023年秋	2023年冬	2024年春	総計
ウトロ	旅行客数	17,859	13,301	12,147	9,594	52,901
	宿泊者数	9,024	7,227	6,760	5,074	28,085
	宿泊率	*50.5%*	*54.3%*	*55.7%*	*52.9%*	*53.1%*
知床斜里	旅行客数	1,249	1,176	1,577	1,285	5,287
	宿泊者数	483	330	320	504	1,637
	宿泊率	*38.7%*	*28.1%*	*20.3%*	*39.2%*	*31.0%*



データ提供元：（株）ドコモ・インサイトマーケティング／モバイル空間統計

モバイル空間統計は株式会社 NTT ドコモの登録商標です。

5. その他・参考など

（1）ドコモのモバイル空間統計（R）の特徴

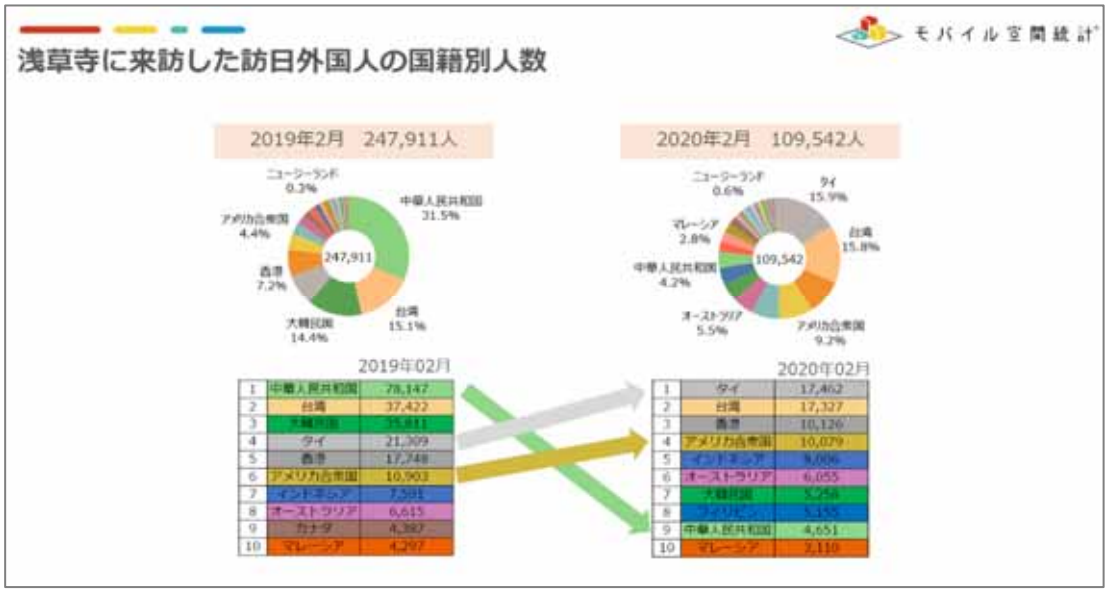
- サンプルサイズが大きく、統計データの精度は高い。
- 携帯の基地局情報を基にしており、500m（国内）および 1 ㎞（訪日外国人）メッシュでの集計が基本となる。
- 滞在人口は、拡大推計である。

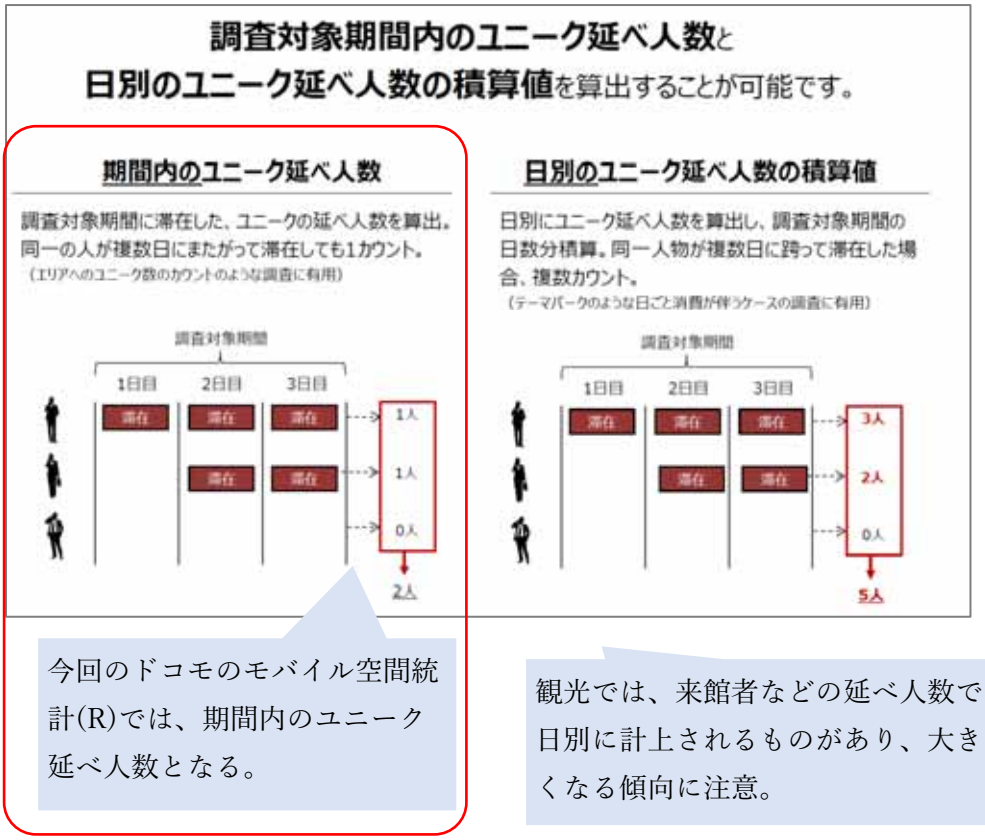
出典：（株）ドコモ・インサイトマーケティング

- 前述のデータを加工し、ドコモのモバイル空間統計（R）として、観光等で利用しやすいデータとして提供されている。

■ ドコモのモバイル空間統計（R）における滞在人口の集計仕様

滞在人口は、期間内のユニーク延べ人数となる。日別のユニーク延べ人数の積算値を用いていないことから、滞在人口が低く出る傾向のある点に留意が必要。





今回のドコモのモバイル空間統計(R)では、期間内のユニーク延べ人数となる。

観光では、来館者などの延べ人数で日別に計上されるものがあり、大きくなる傾向に注意。

■ドコモのモバイル空間統計（R）における「分布分析（メッシュ）」の集計仕様

購入した斜里町内を 1km メッシュ（地域メッシュ統計の 3 次メッシュに該当）で分割し、各メッシュ内の国地域別に旅行客数、宿泊客数を集計している。各メッシュ内での集計仕様は、次のとおり。

- メッシュの人流集計は、1 時間以上の連続滞在が必要
- 各メッシュでの期間ユニークとする（町内でメッシュを足し合わせると重複）
- その他、対象期間、集計単位、期間内のユニーク延べ人数などは、前述の条件と同一

■その他集計仕様に関する留意事項

- 旅行客数、宿泊客数の集計では、全ての国地域を対象とした集計値と国地域ごとに内訳を示した集計値の 2 つがある。本来、両集計値の総計は、同じとなるが、実際の集計において一致しない。これは、それぞれの集計で秘匿処理が行われており、ある閾値以下の少人数の際にデータ開示しないことによる影響である。

著作権（C）Development Bank of Japan Inc. 2025
当資料は、株式会社日本政策投資銀行（DBJ）により作成されたものです。

本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引などを勧誘するものではありません。本資料は当行が信頼に足ると判断した情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性・確実性を保証するものではありません。本資料のご利用に際しましては、ご自身のご判断でなされますようお願いいたします。
本資料は著作物であり、著作権法に基づき保護されています。本資料の全文または一部を転載・複製する際は、著作権者の許諾が必要ですので、当行までご連絡ください。著作権法の定めに従い引用・転載・複製する際には、必ず『出所：日本政策投資銀行』と明記してください。

（お問い合わせ先）
株式会社日本政策投資銀行　北海道支店　企画調査課
〒060-0003
札幌市中央区北３条西４丁目１　日本生命札幌ビル
Tel：　011－241－4117